

1879年 カナダ・セツトホード 白アスベスト採掘始まる
1998年 世界の年間生産量は、白、青、茶あわせて200万トンに達した
主要生産国は、オーストラリア、カナダ、ロシア、南アフリカ
健康と汚染コストという大きな負の遺産が産出国と使用国の双方に残された
現在も発展途上国では大々的に使われ続けている。

最初の被害報国は、1898年英国ルーシー・ディーン
英国ではさらに1909,1910年にも同様な報国がなされた

1906年 フランス アスベスト織物工場の女子従業員50人が死亡と報国 この報告者は
「一般的に、粉塵の吸入を防ぐために現在では多大な労力が払われているので、
このような疾患は以前ほどにはおきないだろうと言われている」(Murray,1906)

「被害の証拠がないことは、被害がないことの証拠」 初期の誤った考え方
この考え方が、当初は無害と考えられた多くの危険な物質を、
危険なものとして認識することを妨げてき、現在のも引き継がれている

ドイツ 1943年 アスベスト肺がんは職業病として賠償の対象となった
肺がんとアスベスト肺は、10年以上の暴露

中皮腫は最初の暴露から約40年で発症
中皮腫の症例が1940年代と50年代にアスベスト暴露と関連して観察されていた
中皮腫を起こすのに必要な暴露はわずか数ヶ月で十分

国内

アスベスト規制法案 92年

アスベストの原則使用禁止を求めた法案。議員立法で国会に提出されたが、日本石綿協
会が「健康障害は起こり得ないと確信できる」などとした文書を政党と省庁に配り、一度
も審議されないまま廃案